

第6回 小淵沢周辺地区都市再生整備計画事業推進協議会議事録

1 会議名 第6回 小淵沢周辺地区都市再生整備計画事業推進協議会

2 開催日時 平成28年7月4日(月) 午前10時～午後0時15分

3 開催場所 小淵沢総合支所2階研修室

4 出席者(敬称略)

出席委員

茅野 光一郎、小林 健展、小林 伸一、小林 千鶴子、草野 香壽恵、
氏原 宏幸、久保 秀博、卯月 盛夫

欠席委員

坂本 興一、宮坂 清、清水 純子、鈴木 正吉

事務局

赤羽 久建設部長、岩波 信司小淵沢総合支所長、坂本 孝典まちづくり推進課長、植松
宏夫まちづくり推進課長補佐 景観まちづくり担当リーダー末木 陽一、田中 勇

東京芸術大学

北川原 温、松田 和久 他5名

観光・商工課

小澤 永和

会議録署名委員

小林 千鶴子、草野 香壽恵

5 議題

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 報告事項

①前回の推進協議会の質疑事項等について

②山並みワークショップについて

(4) 協議事項

①駅舎オープンに向けた事業計画の検討について

②その他

(5) 閉会

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴人の数

1人

8 協議内容

(1) 議題 (2) 会長あいさつ

卯月会長があいさつを行う。

(2) 議題 (3) 報告事項

①前回の推進協議会の質疑事項等について

(会長)

報告事項1「前回の推進協議会の質疑事項等について」について事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

前回の推進協議会の際に、「推進協議会の今後の運営方針について」及び「推進協議会の委員がどのような立場で計画に携わっていけば良いのか。」という2点の質疑があったので事務局より報告させていただく。

小淵沢駅舎等の周辺整備計画等については、社会資本整備総合交付金事業によりH24年度からの5カ年計画で進められており、本推進協議会についても今年度が最終年度となっている。

今年度の本推進協議会の運営方針としては、これまでの検討内容を踏まえ駅舎オープンに向けた事業計画を策定するとともに、駅舎のオープン後も継続していける事業について、委員の皆様より意見を頂く中で計画を策定し承認を得て、5カ年の成果として報告書をまとめ、本協議会を閉会としたいと考えている。

また皆様から意見をいただき策定した事業計画については、各事業において専門性等もあり委員の皆様が主体となり事業計画を実施することは非常に困難であると考えている。

については事業計画実施のため、推進協議会とは別に実行委員会形式の会を設置し、実行に向け更なる協議を進め、協議終了後に皆様に報告し意見をいただき、来年度事業計画に沿って事業実施を推進していきたいと考えている。

以上報告とさせていただきます。

(会長)

駅舎等の計画は5年計画であり、本協議会も最終年度にあたる。

来年度駅舎周辺整備が完了するとのことであり、本協議会は5年間で事業計画をまとめることとしているがなかなか計画しても事業に結びつかないことも多々あることから、今後駅周辺の活性化のため継続していくことができ、かつ、実施できることを検討して今年度再生整備計画を策定する。また計画の策定と同時に、次年度駅舎がオープンすることをきっかけとして計画した事業を実施するように進めていきたいと思っている。

よって日本全国このような計画が動いているが、場合によっては計画倒れになることもあるため、今年度策定する計画にあたってはできることを実施して、その計画を継続的に実施するという方針がここで確認されたと思っているが何か意見はあるか。また質問等があったら発言してもらいたい。

②山並みワークショップについて

東京芸術大学より発表を行う。

(3) 議題 (4) 協議事項

①駅舎オープンに向けた事業計画の検討について

(会長)

協議事項1について、事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

まず駅舎のスケジュールについてであるが、資料3ページをご覧ください。

当初は平成29年3月に駅全体の完成を目指して進めていたが、工程の遅延等により平成29年6月に新駅舎の運用が開始となる。その後駅全体の運用開始が平成29年9月となる。

そこで資料1ページの本日の議事事項(1)についてであるが、前回の推進協議会において、駅舎が完成したあとに事業計画を検討し活性化を図るのでは事業が遅滞してしまうため、今年度の推進協議会では駅舎完成に向けた事業について協議を進め、事業計画を定めるべきとの意見があった。

このことから事業計画を策定するにあたり、まずは事業計画の基本的な考え方、コンセプトについて検討を行い、そのコンセプトに沿った駅舎オープンの際に実施する計画について協議・検討を進めることとする。

まず1の事業計画のコンセプトについて、事務局として参考に①から④の4項目を提示させていただく。

①次世代を担っていく地元の子どもたちに地元北杜の魅力を伝えるについて、内容としては、将来また多くの魅力的な資源をもつ北杜に戻ってきて、生活をしたいという郷土愛の想いを持ってもらおうというものである。

②北杜の自然、景観、食等の多くの魅力をPRするについて、前回委員の中からも北杜市には既にその全てがそろっている場所であると意見をいただいたとおり、この資源を見て・感じてもらうことで新規観光客やリピーターを確保し活性化につなげていきたいというものである。

③子どもも大人も共に楽しみ、記念と記憶に残すことができるについて、北杜の魅力である自然などを体験してもらい北杜に来た記念と記憶を刻んでもらい、北杜にまた来たいという思いから住んでみたいという思いにつなげて移住定住や少子化の抑制を図っていききたいというものである。

④北杜の地域資源について再考させるについて、北杜で長く生活していると魅力ある地域資源も当たり前なものと感じてしまうが、当たり前が実は特別な貴重なものであったということに気づいてもらい、郷土愛を改めて深めてもらうというものである。

つぎに駅舎オープンに向けた事業計画について、参考に6案を提示させていただいたので、事業内容について例として簡単に説明する。各案のイメージを参考資料として配布してあるので、ご覧いただきながら説明を聞いていただきたい。

①記念植樹について、現在JRよりJRが実施主体となり駅舎新築記念として地元小学生等と植樹を行いたいとの話があり、先ほどのコンセプトの③に該当することから案として記載した。

②小淵沢周辺ウォークラリーについて、以前協議会の中でもウォーキングについて議論がなされたので、商店街や駅周辺の史跡等をめぐるというイメージで記載した。

③地元小・中・高等学校、芸大等でのコラボレーションイベントについて、昨年度、帝京学園短期大学での親子工作体験や先ほど芸大から説明していただいた駅西地下通路内への山並みワークショップや地元の学校との共同コンサートのようなものを想定している。

④ベンチプロジェクトについて、この案は卯月会長が宮城県松島で復興観光プロジェクトの中で実施したもので概略のみ説明させていただくが、東日本大震災の津波により伐採を余儀なくされた木材を使用して、地元小学生が公園等に憩いの場、休憩の場としてベンチの組み立て、色づけ等を行い、公園等に設置したというものである。

よってこのワークショップのように小淵沢商店街等にも子どもが製作し絵を描いたベンチを設置し、憩いの場を設けたらどうかというものである。

⑤食に関するイベントについて、食については昨年度の親子工作体験の時に、明野の浅尾大根を使用した豚汁の提供をしたように、地元食材を使用した朝市等のイベントを想定している。

⑥ありがとう駅舎さよならイベントについて、現在の小淵沢駅を将来にわたり記憶に残すためパネル展や取壊し前に記憶に残るようなイベントの開催を想定している。

以上が議事事項1についての説明である。

以降2ページ・3ページに以上の説明の内容を表にまとめた。

そこで本日は、事業計画のコンセプト及び事業計画を皆さんで検討していただき、皆さんからの意見をポストイットに記載して、前の拡大した用紙に貼り付け、まとめていきたいと思う。

については、実施してみたい事業等について活発な御意見をお願いしたい。

(会長)

説明中に新駅舎や周辺の風景の画像が映し出されていたが、画像を基に進捗状況などについて説明をいただき、事業計画を考えるのはいかがか。

【東京芸術大学 北川原先生より駅舎及び駅前広場のデザイン等について説明を行う。】

(会長)

駅舎の完成が来年の6月、駅全体の完成が9月ということで大変楽しみである。

今完成したときの空間的なイメージを確認したので、駅舎及び駅周辺で継続していける事業計画についてこれから検討していきたいと思う。

では一つ一つに対して提案をいただき進めていくこととする。

まずコンセプトについては、資料に記載してあることを御確認いただくこととするが、一言で言えば地元に住んでいる子ども、大人、高齢者を含めて地元の誇りや郷土愛を育むもの、観光客が1回来て楽しむだけではなく、何度も来ていただきリピーターになってもらえるようなもの、今まで検討を行ってきた食と風景に関するものを事業計画としたいということである。

そこで2番目として事業計画の案が記載されているので、これについて意見交換を行っていききたい。

事業計画の案として①から⑥まで記載されているが、これを順番に議論して他に提案された計画については⑦などに記載することとする。

では①の記念植樹について、スケジュール表では来年の4月に①として記載されている。

この計画は具体的に協議が進行しているということで良いか。

(事務局)

既にJRから話があり、現在協議を進めているところである。事業の内容から順次説明をさせていただくが、事業内容としては駅舎新築を子どもの記念と記憶に残すため植樹を行うというものである。対象者については今のところ小淵沢の小学生を対象としたいとのことであり、実施主体はJRとなり北杜市が協力団体となる。実施時期については植樹が行える4月頃を目途に調整している。また場所については駅の北側に市有地があるためその場所に植樹を行うとともに、駅前広場の西側の植樹帯に石碑を移設してあるが、その場所にシンボルツリーとして植樹をしてはどうかということで協議を進めている。なお必要経費については、苗代、肥料代、管理費としてJRが支出するということである。

(会長)

植樹の樹種については、決定しているのか。

(事務局)

まだ植樹の候補地の調整を行っているところであり、樹種までは決定していないので、今後協議を進めていきたいと思っている。

(会長)

では①について何か意見等はあるか。

(委員)

以前北側市有地の有効活用の話があったが、今日具体的な話が進んでいること、また維持管理についてもJRが行うということに大変驚いた。

そこで小淵沢には花を栽培している業者としてミヨシさんがあるため、このような業

者の方やキースの中村社長などの意見を聞くことも非常に良いと思う。このことにより協力も得られるのではないかと思う。

(会長)

では意見をポストイットに記入して貼り付けていきたいと思う。

ここで少し気になったのだが、植樹はJRが主体となるが、維持管理は市ではないか。

(事務局)

説明不足で申し訳ないが、資料に記載した管理費とは植樹するまでの管理であり、維持管理は市となる。

(会長)

大変良い意見を聞き、今後北側市有地の整備計画をきちんと立てて駅舎オープンまでにはここまで実施し、その後はこのようにしていくということが必要である。よってこの場所についても、ワーキンググループなどの組織があっても良いのではないか。今の意見ではJR、北川原先生、市役所に任せるのではなく、地元の方がワーキンググループなどを設置して計画や管理方法について検討した方が良いということである。

(委員)

やはり維持管理が一過性のものになってしまう。

(会長)

土地は市になるのか。また樹木も市に移管されるのか。

(事務局)

市有地であり、また樹木も市に寄贈される。

(会長)

やはりその後市が管理するには非常に困難であり、また市が行うことは限られているため、地元の方がどのように利用・活用したいか検討し、管理していくことが良いと思う。

他に意見はあるか。

(委員)

この駅周辺のことについては以前から話が出ており、約8、9年前に市に商店街の道路を整備していただいた。その計画内容についてもいろいろな意見があり、その中には高原の駅というイメージから植樹ということも出たが、先ほどの話のとおり誰が維持管理するかという話になり商店街の多くは反対であった。商店街の方は誰が枯葉の掃除をするのか、枝が伸びたら誰が剪定するのかということがあり計画が流れた。

このようなことを考えると、誰に押し付けるのではなく市や地元の住民、まちづくり団体、苗木などを扱う事業者などと連携をして取り組む体制づくりを行い進めなければならないと思う。

(委員)

北側市有地は電車の車窓から眺めることができるので、そこに企業の広告を設置して

もらい広告料を徴収して管理費に充てる方法も一つあると思う。もちろん景観の問題などもあると思うが。

(会長)

そのような方法を取っているケースもある。ほかにも企業などからの寄付によりベンチを製作し、このベンチは〇〇企業の提供ですという方法を取っているところもある。

また3月に小学生を対象にしたワークショップを行った地下通路から、北側市有地には行けるのか。

(委員)

行くことができる。

(会長)

やはり見るだけではなく、周遊する出来ることが素晴らしいと思う。

(委員)

先ほど市においてシンボルツリーの話があったが、一度市に検討して欲しい事項として、せっかく北杜市を含めて八ヶ岳周辺というのはいろいろな広葉樹や針葉樹があるのでそのようなものを1種類ではなく植えていただきたい。また私もいろいろな地域や駅を見る中で低木の方が多いと感じる。先ほど石垣が200年もつということであれば、例えば旧小淵沢支所の桜など樹齢が100年近くあるがその他は樹齢の長い樹木があまりないので、200年以上の樹齢を持つ樹木をシンボルツリーとするのが良いのではないかと思う。

あと今の駅舎に西側にトイレがあるが、その横からホームに向かって手を振って見送りしている方がいるので、もし木を植えるのであれば木の間隔等に配慮していただき、最後の見送りができるスペースを確保していただけたらうれしいと思った。

(会長)

そのようなスペースも必要であり、大変良いと思う。

新しい駅舎には、そのようなスペースを確保することは可能か。

(芸大)

十分に可能である。

(会長)

ではそのようなスペースにはあまり大きな木を植えないで、見送ることができるようにしたら良いと思う。他に意見は。

(委員)

小淵沢は馬の町であるので、そのような点も考慮してもらえればと思う。

また神田桜の子孫が育っているので、そのようなことも考慮していただきたいと思う。

その他に小淵沢はずらんもシンボルであるのに、あまり町の中に見られない。ずらんは日陰でなければ育たないが、そのようなものも考えてみるとより良い計画になるのではないかと思った。

(委員)

北側にはこれまで行っていなかったの、地下通路を通して北側に抜けるルートが作れるというのは非常に良いと思った。今のような種子を植えるのかという話であるが、あまり大きな木は景観なども問題もあるので、そのようなことも考慮することは必要であると思うが、記念植樹については非常に良いことであると思う。あとはJRに任せきりになるのではなく、地元の方の意見も聞く中で検討した方が、今後うまくつながるのではないかと思った。

(会長)

他のところでは、子どもにとって植樹は非常に印象深いものであって、一年に一度両親と子どもが必ず訪れ、子どもが成長とともに樹木がどの程度成長しているかという記録を行うイベントを実施している。これは子どもにとって非常に良い記憶になると思う。

(委員)

先ほど委員からも意見が出たが、この協議会で前にも話をさせていただいたが、小淵沢は昔から馬の町であり、駅もそのような印象を抱いていただけるような表現というか策を練っていきたいと思っている。今の段階ではそのようなことは見受けられないということ。また他の協議会等でのホースクラブや観光協会等との話し合いの中で、馬の町小淵沢ということであれば、地元の方も含めて馬への認識を改めてもってもらうという意識付けを行っていくことも必要であるということも出ている。よってそれを考えると、駅周辺には馬のイメージを表現していく必要があると思う。8月14日のすずらん祭りでもここ数年引き馬を行っているが非常に人気があるので、例えば北側市有地でホースクラブの方の協力のもと引き馬など行くと全国的にも稀であり良いと思うので提案したい。

(会長)

他市では、障害のある子の癒しなどのためにポニーを使っているケースもある。なかなか一年を通して実施するわけにはいかないが、北杜市らしい提案であると感じた。

(委員)

以前からあるが専門家によると、ホースセラピーは子どもから高齢者まで触れたり、絵を描いたりすることで効果があると言われている。

(委員)

今馬の話が出たが、乗馬関係の方に、馬を駅に連れてくるようなイベントがないか聞いたところあるとのことだった。市も交渉してみてもどうか。

(事務局)

また検討することとする。

(芸大)

以前馬を駅に連れてきて、一日に何度か居てもらおうという話があった。

その当時調べてみたところ、神奈川県でそのようなことをしている駅があった。

電車を降りてきた人をポニーが迎えるということは全国的にも少ないため、もし小淵沢駅で出来るのであれば大変貴重であると思う。

また新駅舎は山のイメージだけでなく、色と形が馬もイメージしている。そのほかに縄文時代の住居、大地等を合せてデザインを行った。

よって駅舎自体も馬のイメージがされているということである。

(会長)

では①は記念植樹というタイトルになっているが、駅舎オープン時及びその後の北側市有地の利用計画も含めて地元関係者等により部会のような会を組織して、今日あった意見を踏まえて検討を進めていただきたいということを本協議会からお願いしたいと思う。また本協議会の委員の中からも、委員になっていただくこととなると思うが宜しくお願いしたい。

(会長)

では②の小淵沢周辺ウォークラリーについて、再度事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

以前協議会の中でもウォーキングについて議論がされましたので、商店街や駅周辺の史跡等をめぐるというイメージで記載しました。

(会長)

協議会でも以前議論を行ったが、まだ実現していない事業であるので、このようにすれば来年の6月又は9月に実施できるのではないかという意見はあるか。

(委員)

今年の9月22日に観光協会小淵沢支部において、こぶちさわ馬のまち祭り馬とふれあう新棒道ウォーキングと、馬術場を会場としてマーケットを行う計画がある。たぶんこのイベントが定着していくのが9月の敬老の日の週であり、駅のオープニング記念の9月のイベントとなると思う。

私としては、駅オープニングのイベントと一緒に開催できれば良いと思っている。小淵沢の方たちは9月のこのイベントで手一杯となってくると思うので、駅オープンイベントと合同で開催できれば良いと思う。

(会長)

今年の9月22日の馬のまち祭りの主催はどこになるのか。

(委員)

観光協会である。

(会長)

では毎年行われることになると、来年度の9月もこの祭りを実施する可能性もあるということか。

(委員)

もう今年で3回目になる。試行錯誤しながら、今年については少し規模を大きくした。

(会長)

その中に歩くコースもあるということか。

(委員)

そうである。ウォーキングと馬術場でフリーマーケット等を開いて、地元の方にも参加してもらい楽しんでもらう。目標としてはウォーキングで300人、その他含めて全部で1000人程度である。

(会長)

では今出た意見と一緒に実施できるのであれば、そのようにするのはいかがか。

(委員)

今の意見のように共催とすれば、よりにぎやかに実施できると思う。

(委員)

長坂では体育協会で、JRに乗って長坂の町などを歩いて、最終的には長坂のお祭りの会場がスタンプラリーの最終点であるので、そのように絡めるとうまくいくのではないかと思う。

(会長)

そのイベントは何月頃にやっているのか。

(委員)

例年8月である。お祭りは北杜ふるさと祭りというもので、その時に県外の方は電車に乗ってきて、長坂駅から最終のお祭り会場までウォーキングをするというものである。

(会長)

体育協会とJRが共催ということか。

(委員)

そうである。よって同じように、県外の方も駅を利用して参加できるようなイベントはおもしろいと感じた。

(会長)

先ほど委員からも意見があったが、事務局と相談をしたときも新しいことばかりをやる方がいいことはなく、今あるイベントに小淵沢駅舎祝というような冠を添えて、バラバラにチラシを作成するのではなく、まとめてスケジュール化したポスターを半年ほど貼り出すというのはどうかという話をした。

よって広報により、いろいろなイベントを知ってもらい広げることは非常に良い案だと思う。

(委員)

これは観光協会ということではないが、JRでは「駅からウォーク」というものがあるが、それを小淵沢の駅周辺でもできるように案を検討しなおして、JRに対して提案できたら良いと思っている。

(会長)

今の段階では、小淵沢駅からの「駅からウォーク」は実施していないのか。

(委員)

観光協会としては大滝湧水、馬場の里などのウォークがあり、マップは出来ている。棒道コースと大滝湧水コースの2つのコースを観光協会で作案内はしている。しかしJRが絡んでいるものではない。

(会長)

今後「駅からウォーク」を小淵沢で実施できるような方法等について、何か市として情報はないか。

(観光・商工課)

JRとタイアップした「駅からハイキング」というイベントがあるので、JRと協議をしていただければ、小淵沢駅からのルートについても実施できる可能性はあると思う。

(会長)

常にあるコースをただ宣伝するだけではなく、何月何日に実施すると決まった段階で協力してもらうことも良いということであれば、今後継続性がある事業となると思う。

ではウォークラリーについては、何月という風に決めなくても、JRと観光協会との協議の中で出来るかもしれない。

(委員)

小淵沢にはアウトレットなどいろいろなものがあり、それぞれがいろいろなことを行っている。よって駅だけを中心に考えるのではなく、いろいろなイベント同士をドッキングして実施した方が良いと思う。

(会長)

この協議会は駅周辺について検討することとしているが、駅ができることはきっかけであるので、このきっかけを利用して、周辺のやる気のある団体等が乗っかっていただきたいと思う。よってあまり駅から何キロというような限定はせず魅力があれば少し遠くても観光客は来てくれるはずであるので、私も委員の意見と同じように考えたほうが良いと思う。

では小淵沢駅周辺ウォークラリーというのは、今観光協会で行っているもの、体育協会で行っているもの、JRが行っている駅からハイキングというものをうまく連携しながら、観光協会は9月、体育協会は8月、駅からハイキングは何月という限定はないので調整すれば二つ三つこのスケジュールに当てはまるかもしれない。

(委員)

そもそもの話になってしまい恐縮であるが、我々のまちづくり小淵沢という組織が発足した時の位置付けとしては、小淵沢商店街の活性化ということであった。我々は当時から商店街だけが小淵沢の持ち合わせていることではないので、小淵沢全域を視野に入れながらスタートしている。

今は合併して北杜市になっているわけなので、まちづくり小淵沢と言っても北杜市全

域を見据えている。また県とも連携し今年からまちづくり組織のサミットのようなものを展開している。よって部分的な活動だけで地域をアピールできるかというそうではないと思っており、そもそもこのような事業計画を進めるに当たって、少なくとも小淵沢の将来ビジョンが何なのかを整理した方が良いと思う。そうでなければ先ほどからいくつか課題が出てきているが、これは課題でありやりたいことというのはそれぞれの目標であり、目的ではない。よって目的をしっかりと定めることによって、逆算して何をやるべきかが出てくると思う。そのようなことを定めるために協議会が設置されているので、その目的を我々が持ち合わせていないと、関係団体、企業、地域住民にもビジョンを示すことができない。それを示さないとみんな一生懸命やっているが、勝手に進んでしまい、外に対して一貫性のあるものが示すことができなくなることを危惧している。

(会長)

自治体として小淵沢の将来ビジョンは何かしらあると思うが、今回の小淵沢周辺地区都市再生整備計画事業推進協議会において3月に報告書を作成するが、その最初の部分に上位計画が出てくると思うが、本日の冒頭に申し上げたとおり絵に描いた餅ではなく、実現可能なこととして上位計画を受けた中で具体的なコンセプト、事業計画というように段々ブレイクダウンしていくような作りの報告書とするべきであると思う。

先ほどの委員のご提案は、報告書を作成するときにも当然必要であり、また具体的な事業について議論する中でも大変必要なことであると思うので、協議会として小淵沢の将来ビジョンについても考えながら議論を進めていきたいと思う。

(会長)

では③の地元の学校、芸大等とのコラボレーションイベントについてであるが、先ほどの地下通路の話は当然に進めるとして、その他として事務局が想定していることを説明してもらいたい。

(事務局)

昨年度、帝京学園短期大学での親子工作体験や先ほど芸大から説明していただいた駅西地下通路内への山並みワークショップや地元の学校との共同コンサートのようなものを想定している。

(会長)

今までも実施しているものもあるが、やはり地元の小・中・高校生も含めて学校としても地域学習というものもあり、地域側としても子どもたちに地域のことを学んでほしいと思っているので、もう少し事業を検討してみようということである。これについて意見をお願いしたい。

(委員)

私は親子工作体験に参加させていただいたが、子どもが関わるこのような事業は非常に良いと思う。以前芸大が商店街で行ったイベントのように、小淵沢には多くのアーティストがいるので、そのようなイベントも良いと思う。

(会長)

共同コンサートについては、何か既に計画等があるのか。

(委員)

芸大の生命力の踊り場のイベントがある。

(会長)

毎年実施しているのか。

(芸大)

2年実施している。

(委員)

地元の方も大変期待しているイベントである。

(芸大)

昨年4月26日に北川原研究室と音楽家数名とダンスと映像家と併せて、地元のアーティストとコラボレーションし実施した。

地元の方以外の方も参加していただき好評であり、開催後に地元にこのようなアーティストがいるというような情報をいろいろな方からいただいた。

このようなことから、今後継続していきたいイベントであると思っている。

(会長)

では今から準備すれば次年度も実施できそうか。

芸大とのコラボレーションは団体または個人なのか。

(委員)

私はイベント in こぶちという住民ボランティア団体を立ち上げ、住民の受入体制を行った中で商店街のお店にも協力していただき、2店舗ほど駅前にフリーマーケットを開き、その後先ほどの芸大が商工会でイベントを行った。

また蛇足であるが、写真に載っているのはドンシャカピーポーというアフリカの楽器を使った演奏家の方たちであるが、地元の方もこのイベントの時の印象が非常に良かったということで今年のホースショーに出演することが決まった。

よって、このように地元の方たちとのふれあいや交流の場を持てれば良いと思う。

(会長)

地元アーティストと芸大とのコラボレーションイベントをもし実施するとすれば、時期はいつで場所はどの辺が良いと思うか。

(委員)

昨年商工会で実施したときは、タクシーの運転手も止まって見学したりしていたので、非常に良かったと思う。

(委員)

商工会の中では150人でいっぱいになってしまう。

外の広場を使用すれば、人はもっと集まることができると思う。

(会長)

商店街の周辺で、あれだけの広いスペースは非常に貴重であると思う。

(委員)

それと商店街の通りに商店の方がフリーマーケットを出したが、その時だけでなく出店出来れば良いと思う。

(会長)

最初は一過性で始まるが、あれは良かったという声が出てきて継続されると良いと思う。前はいつ頃に実施したのか。

(委員)

4月の末である。よって記念植樹など何かのイベントに重ねないと大変だと思う。

(会長)

そのように思う。時期は分からないが、あの場所で芸大と地元アーティストとのコラボレーションイベントが出来るかもしれないということなので、案として検討をしていきたいと思う。しかし事業概要としては、小・中・高とのコラボレーションイベントと記載してあるが、そのようなイベントも実施の可能性としてあるのか。

(委員)

可能性が高いのは、昨年度帝京学園短期大学とコラボレーションしたイベントであると思う。学園祭ということもあり日程は11月で決まっているので、準備の必要も少なく、確実に子どもが来るのでPRもしやすいイベントであると思う。

(会長)

11月では今のスケジュールとずれてしまうが、9月以降に実施しても良いと思う。今の話で、帝京学園とは今後も連携可能ではないかということなので検討を進めていきたいと思う。

その他地元の小・中・高との子どもたちと、何かコラボレーションできるイベントはないか。もちろん植樹やウォークラリーも子どもたちが参加することとなると思うが、何か別の企画はないか。

(委員)

小淵沢の文化協会というものがあり、県内でも一番熱心な団体である。

文化祭に小・中・高の子どもが一緒になって行うのは非常に珍しいことのようにあるが、今年も実施する予定である。大人の中に子どもが入ることによってにぎやかになる。今年も10月下旬の土日に開催する予定であるので、これに芸大も入ってもらえると、よりにぎやかになるのではないかと考えた。

(会長)

11月の帝京学園、10月の文化祭の件については、駅舎オープンの後のポストのイベントとしても良いのではないか。

(委員)

今文化協会では多目的スペースの使い方についても、現在熱心に検討を進めているところである。

(会長)

多目的スペースの使用の検討は、重要であると思う。

今の意見を聞き思ったが、駅舎がオープンするときには多目的スペースも使用できるということになるので、オープンした6月以降にどのように利活用するのか事前に検討をしなければならないと思う。

市としては、多目的ホールの利活用については、どのような検討を進めているのか。

(事務局)

現在小淵沢支所長に依頼し、関係団体に利活用の方法について協議を行っていただいているところである。また観光・商工課とも協議する必要があるため、関係団体での協議結果と合せて利活用の方法について検討を進めていきたいと考えている。

(会長)

管理等は全て市が行うのか。それとも指定管理などに行わせるのか。

(事務局)

直営なのか指定管理なのか、そこも含めて検討しているところである。

(会長)

では利活用の方法等について一度議論した方が良いかもしれないので、⑦として、「多目的ホールの利活用の検討」についても1項目追加し協議を進めることとする。

(会長)

では④のベンチプロジェクトについて、簡単に説明させていただく。

事務局との打合せの中で思い出して追加した事業案なのだが、先ほどの説明のとおり、私は日本全国何箇所かにおいて商店街、地元小・中学校、被災地などで活性化の手伝いをしてきた。

その中の被災地での話になるが、東日本大震災で宮城は津波により大きな被害を受けた。皆さんもご存じかもしれないが、松島には瑞巖寺という素晴らしい寺があるわけだが、瑞巖寺の杉が津波によって大きな被害を受け伐採せざるを得ない状況となった。そこでその杉を使用して何か活用したいという話があり、松島の商店街の看板やチップにするなどの有効活用の方法についていろいろな意見が出された。

そこで以前、私が実施したことのあるベンチプロジェクトを提案した。

それは松島には松島海岸公園という大きな公園があったのだが、その場所も被災したことから海岸公園を再計画することとなり私がその委員長になった。そこで子どもたちとのワークショップを行ったところ、海岸公園にはベンチが非常に少ないという意見があり、ではどうしたいのか聞いたところベンチを置きたい、作りたいという話になった。

そこで地元の木材組合に依頼して伐採した木材を製材してもらい、地元の小・中学生が教えてもらいながら組立てを行った。

その後製作したベンチをどこに置いたら良いか、商店街ならどこに置けば利用してもらえるのかなど場所についても子どもたちに検討してもらい、松島らしい物にしようということで松や満月などのペイントを行い、完成したベンチについては商店街に17基設置した。この事業は子どもにとっても良いことだが、子どもたちが作ったベンチにお客様などが座る姿を子どもが見ることによって、子どももうれしさを感じることができる。

世田谷の例では、信用金庫や福祉施設からリクエストがきている状況であり、年々ベンチが増えていっている状況である。

このようにベンチを通じたまちづくりというのも、一方ではおもしろいのではないかと思い、アイデアを出させていただいた。

(委員)

数年前に県のセミナーで、景観やまちづくりの専門の堀先生という方のお話の中で印象に残っているが、ベンチというのは商店街や景観スポットにしっかりと置くということが地域への来訪者に対する姿勢が表れるため、小淵沢商店街などに置くベンチを作っていただけの方などを募っていくことも可能であると思う。また小淵沢の地域が来訪者や地元の住民に対しても、おもてなしの姿勢が表れるので、ぜひ取り組んでいただきたいと思う。

また北杜市にはサイクリングに来られる方が多く、地元でもそのようなイベントも実施しているところであり、電車で来て駅をスタートにする方も多くいらっしゃるようなので、駅で自転車を組み立てる器具のようなものを設置することもおもてなしとして良いと思った。

(会長)

今まで実施していないので、実施する団体を作らなければならない。

(委員)

ベンチの件について、北杜市商工会青年部で6、7年前の部長が北杜市はひまわりが有名であるので「ひまわりプロジェクト」としてひまわりの絵を描いたベンチをメンバーが製作した。

その時も地元の木材を使用して製作し、小淵沢ではフィオーレなどの公共施設や商工会青年部の中で設置できる店舗に設置した経緯がある。

実施して感じたことは設置後の維持管理が大変だったということであり、また今後設置するのであれば、地元の材を使用すると重い物になってしまうので軽い材料の選定や折り畳みが出来るなどの工夫をしてもらえればうれしいと思う。

(会長)

そのプロジェクトは6、7年前に実施したとのことであつたが、既に塗装が剥がれたりしていると思うので、やはり外に設置するものはしっかりと維持管理していかないと長く保存できない。

ではもしかすると、商工会青年部でもう一度ベンチプロジェクトを実施することは可能か。

(委員)

今はベンチとは別のプロジェクトを実施しているので、また部長が変わった際に市などから依頼があれば対応は可能かもしれない。

(会長)

少し可能性があるということか。

やはり委員の意見のとおり維持管理が問題となるので、その方法や設置場所も含めて今後検討を進めていくということではいかがか。

(委員)

出来るか出来ないかということではなく、やるべきかどうかということからスタートした方が良いと思う。このプロジェクトは、ぜひやるべきものであると思う。あとはどのように進めるかということで、これは行政や青年部に全てやってもらうというのではなく、地域も協力しながらやるべきだと思う。

(会長)

小・中・高校生が一緒になって製作し、どこに設置したら良いかなど、まちづくりの学習も含めて進めたほうが効果は高くなる。

ではこのプロジェクトについても、今後検討を進めていくこととする。

(会長)

では⑤の食に関するイベントについて、事務局から情報の提供をお願いしたい。

(事務局)

商店街や駅前広場で地元食材を提供する朝市等のイベントを想定して記載した。

(委員)

朝市を実施したら成功すると思う。

小淵沢の道の駅は、東日本の中でも非常に人気の道の駅であり、人はたくさんくるが駐車場が不足するというので駐車場の拡幅工事を実施している。

道の駅でも食材を販売しており成功しているので、駅のまわりで北杜市の食材や酒を販売することも成功すると思う。

しかし毎日実施するには非常に大変であると思うので、夏休みや夏の土日に朝市を実施したら良いのではないか。

(会長)

私も良いアイデアだと思う。

ではこれは商店街や商工会青年部などに協力してもらうことが良いのか。

(委員)

青年部ではメンバーが少ないので、小淵沢の有志団体等の協力が必要であると思う。私は清里やほかの場所で協力させていただいているが、弊社においても地域ブランドの

開発も検討しているが、北杜市はブランデー以外のアルコールは全て作っているエリアであることから水も含めて有名である。

また小淵沢では小規模多品種を作る生産者が多く都内へも発信している状況である。

私自身、特に食に関するイベントについては、移住目的の方を巻き込んで実施するのが良いのではないかと思う。

今移住に関する雑誌や番組が多いので、市にも協力していただく中で実施できれば良いと思う。

また北杜市には料理研究家の方も多いので、商品のプロデュースやコーディネートなどもしてもらいながら展開出来たらおもしろいと思う。

(会長)

意見を聞いている中で、食に関しては大きなメニューになると感じた。

では食に関するイベントについても、今後検討を進めることとする。

(会長)

では⑥ありがとう駅舎さよならイベントについて、事務局より情報の提供をお願いしたい。

(事務局)

現在の小淵沢駅を将来にわたり記憶に残すためパネル展や取壊し前に記憶に残るようなイベントの開催を想定して記載した。

(会長)

以前草加市で児童館の取壊しに当たり、児童館を利用していた子どもが集まり壁にメッセージなどをペイントした。

駅舎というのは思い出の塊のような場所であるが、いずれは取壊してしまうので、何か思い出が残るように何か活用を検討しイベント仕立てにするのも私は良いと思う。

(委員)

確認であるが、いつ駅舎は取壊しを行うのか。

私も会長の意見と同様にイベント仕立てにするのはおもしろいと思う。

また小淵沢は、小海線もあり電車を趣味にする方にも人気があるので、その方たちを巻き込むのも良いと思う。

その他として、新しい駅舎のイメージが薄れてきているので、イメージ図を駅の中に展示していただくと良いと思う。

(会長)

たしかに小海線を好きな方も多いと思う。

今の駅舎の解体時期はいつなのか。

(事務局)

6月に新駅舎に切り替わった後、取壊しを行う予定である。

(委員)

中央線も小海線も歴代電車が新しくなっているので、その流れを写真で展示することも良いと思う。

(会長)

駅としてハード部分の写真展も良いと思うが、駅を利用した人たちの駅で撮影した昔の写真などを募集して展示するとおもしろいかもしれない。

今後駅の取壊しの日程は非常にタイトであるため、1日だけのイベントになるかもしれないが、この点についてはJRと十分安全対策を含めて協議を行う必要があると思う。

(委員)

だいぶ前になるが、私が行っていた中学が取壊されるという情報があったので、取壊される前に中を見学した。

会長が言われたとおり、駅は中学以上に思い出のある場所であるため、この期間で取壊されるという旨を周知するとともに、JRにも何ができるのか協議に加わっていただき、イベントにも参加していただきたいと思う。

(委員)

毎日駅を利用するのは高校生等であるため、その方にもぜひ参加していただきたい。

(会長)

事務局からは⑥案提示してもらい進めてきたが、皆様からの多くの意見をいただき多くの事業計画の可能性が出てきた。

全てを実施することは困難であると思うが、再度検討を進めてまとめていきたいと思う。

では事務局は、このような事業がある、このような団体に協力を要請してはどうかなどの今日の意見をまとめて表に埋めていただきたい。

また意見も出たが、事業計画を4月から11月くらいまでスケジュール化し、遅くても3月を目途にポスターやチラシの作成をするということを想定して進めていきたいと思う。また事業計画の詳細の協議については、個別の実行委員会のようなものの体制整備を行い進めていってもらいたい。

その他として事務局から何かあるか。

(事務局)

特にない。

それでは、次回は本日検討していただいた事業計画について別途実行委員会を設置し、今年中を目途に詳細について検討を進め計画の内容がまとまった後に報告等行うため会議を開催するのでよろしくお願ひしたい。

では本日の協議会は閉会させていただく。大変お疲れ様でした。